

じっくりと時間をかけて、
熟成させた家づくりへの思い。
この家は私たちの生き方を、
鏡のように映し出しています。



ソーラー
ハウスを
楽しもう。



緑の多い大きな庭の景が吹き抜けのパンコ。

OMソーラーの家を望んだのではなく、望んだ家がOMソーラーの家だったのです。

杉本さんの家

静岡県富士宮市

富士山の西南麓に位置する静岡県富士宮市。瀬野という地影特有の、南に向かつて緩やかに傾斜した閑静な住宅地に建つのが、杉本さんのOMソーラーの家です。

杉本さんのお宅は、ご主人の地産さん、奥様の由加里さん、息子の匠くんの3人家族。ご家族の思いやこだわりが随所に散りばめられているOMソーラーの家は、趣のある鍛造製の照明灯と表札が迎える玄関を入ると、大谷石が敷かれた広い土間があります。その

壁には白い砂漆喰が塗られ、曲線になった部分に玄関横の窓から朝日が当たると、反射してとても美しいのだとか。

土間には居間と奥の和室へと、2つの上がり口があります。これはお茶や生け花の飾箱である由加里さんが、将楽和室を教室として使う場合、居間を通らずに和室へ上がるよう設けられたものです。

居間は吹き抜けで、どしりとした味わいのある大きな梁が渡り、二人息子の匠くんの



パンコや畳の2階の学習コーナー。

大好きなパソコンが架けられています。居間から2階へと上がる階段も玄関の照明灯と同様に鍛造作家の作品で、素材な鉄の風合いが手づくりの温もりを伝えています。2階は吹き抜けを囲むように子ども部屋と和室、パソコンが置かれた学習コーナーが配置され、吹き抜けを介して1階と2階が連続した空間になっています。

キッチン収納や洗面コーナーなどは、ご夫妻が通くまで足を運ぶまで速くすくすくできたものが使われていて、ご夫妻のセンスと家づくりに掛ける思いが窺われます。

杉本さんのOMソーラーの家が建つのは、2007年12月のことですが、社宅を出て



奥から風合いの鍛造作家による階段。



ご夫妻で何度も足を運んで選んだ2階の洗面コーナー。

家建てよう」と計画したのは、それから遡ること5年も前のことだったといいます。家づくりを計画したものの、最初は具体的なカタチが描けていなかたという杉本さん。ただ、「自分たちの思いがカタチとなった家であることだけは譲れない条件」として、建て家が決められてしまう条件付きの土地は除外していったため、土地が決まるまでに2年も要してしまいました。

また建てた家については、「住宅展示場を含めこの地域の住宅会社はたくさん行きました。新しい家はもちろん、古い家もたくさん見て回りました」といい、そうしていくうちに、「自分たちが望んでいるのはオリジナリティが表現できる家、そして昔ながらの本や石など自然素材を使った日本の家だ」ということが、次第にのびのびとしてきました」と杉本さん。

しかし目標が定まったものの、「ご自身の住宅会社でも自由に行けるとはいいうのですが、いくつかのパターンの中から選ぶだけで、それから外れるとすくすくコストがかかってしまう」という現状が目の前に立ちふさがり、さらに「家



2階のバルコニーからは富士山が見える。

が消費財のように扱われることに納得しかねて、なかなか購入切りがつかず、気が付けば土地を取得してさらに2年が経過してしまっていました。そんなある日のことでした。ご家族でお蕎麦屋さんに出かけられた際、杉本さんは、その近くに以前には見かけなかった家が建っているのを見つけてます。土壁の感じといい、「雰囲気がいいよね」と、その家の周りをぐるぐるを見て回ったという杉本さん。その後でお蕎麦屋さんに入ると、なぜかその家の写真が載ったリーフレットが置かれていたのです。杉本さんは、そのリーフレットから、その家がOMソーラー会員工務店の社長の自邸で、モデルハウスを兼ねていることを知ります。そこで「モデルハウスならば」と、中を見せたらうと、その家は杉本さんが長い間熱成させていた思いを具現化した家だったというのです。

「私たちが求めていたものと工務店が提案してくるものと、ほとんどズレがありませんでした。それどころかこちらが求めているものを、さらに発展させた提案を出してくれました」と、それからというもう「今まで長い時間を費やしていたのが嘘みたい」に、どんな話は進んでいきます。高価とされる松ささえも、「節があつても

この家は私たち家族のためだけのオリジナルの家です。



伊勢を配装した1階の和室。

横いせんか」と聞かれたので、「全然気にしません」と言ったら、リースアップなコストで採用することができました。私たちからすれば、節がない方がむしろ不自然なのですから」と、麗俊さんは松の床をいとおしげに見つめます。杉本さんは初めからOMソーラーの家を望んでいたのではありません。望んでいた家が、OMソーラーの家だったのです。OMについて情報はとして知っていましたし、近くで別の工務店による見学会があった時に出かけていき、なるほど暖かいなということを感じていました」という杉本さんですが、その見学会では決定までには至りませんでした。OMソーラーの会員工務店は、全国でその地域の気象条件や土地柄に加え、その工務店の特色を生かした家づくりをそれぞれ展開しています。大手の住宅メーカーのように「画一的な家ではなく、各工務店の個性に加え、その住まい手の暮らしや生き方に添った家づくりがなされるため」として同じ家はないのです。ですから杉本さんの場合は

OMソーラーの家に暮らして1年、「それまで暖房がrogん掛けた生活でしたから、最初の冬はちよと物足りな感じもしましたけど、身体が慣れてきたのでしようが、今年はずごく暖かかったです。夏もエアコンなしで過ごせましたし」。長年温めてきた思いが叶った家で暮らす日々の中で、自分たちのそうした変化つびとささえも、業しげに受け止める杉本さんご家族です。

「自分たちの思いをカタチにした家」と掲げられた杉本さんの理想は、5年という歳月を経て、OMソーラーの家というカタチに結実しました。工務店は杉本さんの期待を裏切ることなく、思いを反映させた家をしっかりとカタチに暮らしました。この家はほかの誰の家でもない、杉本さんご家族が「こういふふうに暮らしたい」という思いを表現した、杉本さんご家族のためだけの家なのです。



コーフ丁事に通入したパースを組み立てたお気に入りのキッチン。

将来を見越して土間から 2つの入り口を設ける。

富士ヒノキや県内産の杉、砂波焼、大谷石など、自然素材がふんだんに使われた杉本さんのOMソーラーの家。居間の家を吹き抜けにした二階建てのコンパクトな作りですが、家の隅々



軒の出がかった玄関のデザインは居間の延長でもある。



丁寧な手仕事による伝統的な土間の仕上げの床。



ヒノキ材が使われている居室。



土間の照明灯と表札は職造作家の作品。

にまで大工をはじめとした職人の丁寧な手仕事のあとが残ります。

玄関土間には靴箱を兼ねた大きな収納が設けられています。また土間からは居間への入り口と、和室への入り口の2つの入り口が設けられています。居間の南側の大きなピクチャーウィンドウは冬季にはたっぷり日差しを取り入れ、夏季は鍵のかかる通風雨戸により風通しを良くしています。



1階



2階



1/500

建物概要 / 在来木造2階建て 敷地面積 / 209.63㎡
延床面積 / 100.93㎡ (1階:60.82㎡ 2階:40.11㎡) 竣工 / 2007年12月
設計・施工 / (有)空間工房LOHAS

OM通信

太陽体感キャンペーン、 住まい手の作品コンテストを実施中!!

この冬、OMソーラーでは「1万人の太陽体感キャンペーン」を実施中(2009年3月29日(日)まで)。全国のOM会員工務店の開催する見学会会場で、OMの体感、設計のポイント解説、住まい手の声の紹介などを実施するほか、キャンペーン期間中は2010年3月末までにOMの家を建てる方を対象としたモニターも募集しています。この機会に、ぜひ太陽の輝かさをご体感ください。

また、この期間、同時企画としてOMソーラーの家の住まい手の皆さんを対象とした「2万家族の「太陽と一緒に暮らし」コンテスト」も開催(2009年3月末日まで)。作文、写真、絵、WebなどでOMの家の暮らしを表現していただき、部門ごとに賞を贈らせていただきます。

キャンペーン、コンテストの詳細につきましては、OMソーラーサイト内「キャンペーン・コンテスト特設ページ」をご覧ください。キャンペーン、コンテストへの皆様の参加を、お待ちしております!

OMソーラーサイト<キャンペーン・コンテスト特設ページ>

http://omsolar.jp/info/ev_08win/index.html

